

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	1	○ 基礎的・基本的な知識及び技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、主体的に学習に取り組む態度の涵養
目標（評価規準）		①【 学習態度 】授業規律を守り、粘り強く学習に取り組んでいる。 ②【 対話的な学習 】自分の考えをもち、他者との対話を通して考えを深めている。 ③【 見通しと振り返り 】「見通し」をもって授業に臨み、単元終了後などで「振り返り」を行っている。 ④【 家庭学習 】家庭での学習に自ら取り組んでいる。
重点に係る現状 設定理由		学習指導要領の「確かな学力の育成」を踏まえ、学習に対する目標を明確化・具体化し、その意義を踏まえながら向上心をもって粘り強く取り組む生徒の育成を家庭との連携のもとでめざしたい

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	○ ①【 学習態度 】の項目「あなたの授業で、生徒は授業に粘り強く取り組んでいると思いますか」という設問に対し、96.0%の教職員が肯定的な評価であった。また、②【 対話的な学習 】の項目「あなたの授業で、話し合いや協力活動を通じて、生徒が考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」という設問に対し、92.0%の教職員が肯定的な評価であった。 ● 一方、③【 見通しと振り返り 】の項目「あなたの生徒は、「見通し」をもって学習し、「振り返り」を行っていると思いますか」の設問に対し、32.0%の教職員が否定的な評価であり、④【 家庭学習 】の項目「あなたの生徒は、家庭で学習に取り組んでいると思いますか」の設問では、72.0%の教職員が否定的な評価であり、見通しと振り返り・家庭学習に関する取組に課題があると捉えている。
各アンケート等の結果	①【 学習態度 】の項目では、90.6%の生徒・73.2%の保護者が肯定的な評価であった。②【 対話的な学習 】の項目では、81.9%の生徒・85.4%の保護者が、③【 見通しと振り返り 】では、68.1%の生徒・43.6%の保護者が、④【 家庭学習 】では、55.1%の生徒・52.4%の保護者が肯定的な評価であり、教職員アンケートと同様、見通しと振り返り・家庭学習に関する取組に課題があることが明らかになった。
自己評価結果 (見解と改善方策)	○ 教職員の「指導方法の工夫」の成果が、生徒の「学習に前向きな姿勢」につながっていると考えられ、生徒に力をつけるこちら側の指導力が問われるので引き続き頑張っていきたい。 ○ タブレットを活用するなど、生徒同士が交流する機会を増やしていることで、対話を通して考えを深めているという実感につながっていると考えられる。 ● 【 見通しと振り返り 】の項目については、教職員間での情報共有・共通理解をさらに深めることが必要である。また、保護者の否定的な評価が高かったことは、保護者に「見通し」という言葉のとらえが確に伝わっていないことも想定されるため、効果的な情報発信の在り方について、年度当初の保護者説明会や学校通信等を活用しながら、丁寧に取り組んでいくこととする。 ● 生徒に『どのような【 家庭学習 】が必要なのか（＝家庭学習の在り方）』について、教職員間で共有していくことが必要であり、「何を持って帰って」「何をやる」ということを整理し、家庭学習の中身や量についても教科指導グループ・教科指導委員会で検討することとする。
学校関係者評価結果	○（学校評議員会の開催日に併せて授業参観を行った）観た授業どれも生徒が穏やかで落ち着いて集中して取り組んでいてよかった。先生と生徒の人間関係のよさが伝わってきた。 ○ 体育のダンスやデジタル教材を活用した授業を観ると時代の流れを感じた。 ○ 小学校の家庭学習では「自分がやるべきことを自分で考えて自分で取り組む」ことに徹底して取り組んでいる。その点を卒業生である中学生と話したとき、「中学校は楽だ」と言っていた。担任が全てを把握できる小学校との違いはあると思うが。 ○ 保護者としては、「見通しと振り返り」という言葉自体がよくわからない。学校としても、どういう学び方をしているのかの発信をしていく必要があるのではないか。 ○ 授業時数の少ない教科にとっては、この「見通しと振り返り」をするということは、大切なことはわかってはいるものの時間が足りないのではないかと考えてしまう。 ○ 「見通しと振り返り」と「家庭学習」はリンクしているように感じる。家でどんなことをやればよいのかという見通しをもたせるような工夫が必要だと感じる。 ○ デジタルを活用した学習であれば、生徒もつてくるのではないか。
最終改善方策	○ 本校の授業づくりは、新学習指導要領に基づいて適切に行われているものと考えています。今後さらに教職員間で共通理解を深めながら生徒の学力向上に向けて丁寧に取り組んでいきます。 ○ 学校で学んでいる生徒の姿や各教科がどのような目標を持ち、どのように学んでいくことをねらっているのか、「見通しと振り返り」、「学びの意義」、「主体的・対話的で深い学び」など学習指導要領で示されているキーワードとともに丁寧に家庭や生徒に向けて説明・情報発信をしていく必要があると考えます。 ➔ 学校通信等での紹介や授業参観・学年学級保護者会などの機会を得た説明を丁寧に行っていきます。 ○ 家庭学習については、「何を」「どのように」取り組んでいくのか、学校での授業とリンクした形での課題の提示や学習への取り組み方を含めた指導をさらに進めたいと考えます。 ○ 小・中学校で授業づくりについての連携が進むことでさらに生徒にとって有意義な学びが展開されることが期待できると考えているので、三浦市学校教育ビジョンに示されている「小中の連携」に職員の加重負担とならないように留意しながら取り組んでいきます。

本年度の重点	2	○ 自己肯定感をもち、互いに協働しながら、持続可能な社会の創り手となる生徒の育成
目標（評価規準）		①【自己肯定感】自分のよいところに気づき、自己の特性を活かしながら諸活動に取り組んでいる。 ②【人権感覚の醸成】人権感覚を身に付け、他人や社会との関わりの中で実践している。 ③【集団生活の向上】集団の一員として協力的な言動を取っている。 ④【自治能力の向上】よりよい学校生活・持続可能な社会を築くために、自分で考え、行動している。
重点に係る現状 設定理由		本校における人権教育の取組を継続しながら自己肯定感を育むとともに、多様な他者と協働する様々な集団活動（授業や行事等）を通して、よりよい学校生活や持続可能な社会を築こうとする資質・能力を育成したい

評価資料	評価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	○ ①【自己肯定感】の項目「生徒のよいところを積極的に認め、伝えていますか」という設問に対し、96.0%の教職員が肯定的な評価であった。また、③【集団生活の向上】の項目「集団活動の中で仲間と協力して過ごすための望ましい言動についての指導を工夫しましたか」の設問に対し、96.0%の教職員が肯定的な評価であった。 ● 一方、②【人権感覚の醸成】の項目「生徒の特性を理解し、学校生活の諸活動に活かそうとする態度の育成について具体的な取り組みをしましたか」という設問に対し、88.6%の教職員が肯定的な評価であったものの、1名が「全く当てはまらない」と回答していた。④【自治能力の向上】の項目「生徒の自治能力の向上に向けて具体的な取組を行いましたか」の設問では、16.0%の教職員が否定的な評価であった。自治能力の向上に関する取組に課題があると捉えている。
各アンケート等の結果	○ ①【自己肯定感】の項目では、74.0%の生徒・80.0%の保護者が、③【集団生活の向上】では、91.7%の生徒・93.0%の保護者が肯定的な評価であった。 ● 一方、②【人権感覚の醸成】の項目では、73.2%の生徒・78.7%の保護者が肯定的な評価ではあるものの高い数値であると捉えることができない。また、④【自治能力の向上】では、41.7%の生徒・36.8%の保護者が否定的な評価であり、「自分のよさの認識⇒よさを活かした諸活動への取組」に課題があることが明らかになった。
自己評価結果 （見解と改善方策）	○【自己肯定感】の項目では、教員が生徒のよいところを積極的に認め伝えようとしており、また、保護者も、子どものよいところを他者から認められ、伝えられていると感じていることがうかがえた。 ● 一方、生徒の肯定的な回答は昨年度より高まっているもののまだ不十分であると考えられる。また、「4全く当てはまらない」と回答している率も8%と依然として高く、自分のよいところを認めることができていると思われず、状況が見取れた。 →「よいところがあると思うか」と聞くと、自信をもって「ある」と答えられる生徒が少ないと思われる。様々なことに一生懸命取り組んでいる生徒が多いので、がんばっている自分を肯定的に捉えられるような声かけなどを増やしていけると良い。 ●【人権感覚の醸成】については、生徒の肯定的な回答が73%にとどまっており、「4全く当てはまらない」と回答している率も6%と高い。 → 多様性を学ぶ人権教育講演会（ブラインドサッカー・ハンセン病・LGBTQ・ポッチャ）は有効であったので、確実な引継を行い継続して実施していくことで、生徒自身の「気づき」を促していくことが必要である。 ○【集団生活の向上】については、生徒・保護者・教員のいずれも肯定的な評価が90%を超えており、周りの人のことを考えながら行動する力が養われていると感じることができた。 ●【自治能力の向上】の項目では、教員の肯定的な評価と比べても、生徒・保護者の否定的な回答が高い。地域でのイベントや取組に参加できていない状況もあることも一因であると考えられるが、学校としても、学年を超えた交流ができるイベントや行事などを積極的に開催し、いずれも生徒主体となるような運営を進めていきたい。
学校関係者評価結果	○（7）集団生活と（8）自治能力の項目で生徒の肯定的な回答のデータを見比べた時、集団生活92%に対して、自治能力が59%と顕著な差がある。生徒が“他力本願”となってしまっている感じがします。自治能力こそ伸ばしていくべき力だと思います。 ○ 地域でのイベント等でも、大人ですらなかなか自分から手を挙げて引き受けてくれる人が減ってきている実感がある。自治能力の育成に力を入れてほしい。
最終改善方策	○ 様々な人権課題に目を向け、得た知識を正しく伝えたり、人権を尊重する態度を育てたりする取組は今後もしっかりと継続していきたいと考えます。 ○ 教職員は自己肯定感を高めることのできるようよいところを積極的に認め、伝えていきたいと考えていますが、さらに伝え方を工夫したり、自己有用感を実感できるような活動を意図的に仕組んでいく必要があると考えます。 ○ コロナの影響が落ち着いてくる中では、生徒との関わりをさらに増やし信頼関係を一層厚くしていくとともに、生徒主体の行事となるように教職員全体で意識を共有し、学年を超えた交流ができるような行事を積極的に実施し、自治能力の育成に力を入れていきたいと考えます。 ○ また、教職員間で積極的に他学年の学活や道徳・総合のよい取組を共有し、拡げていきたいと考えます。

本年度の重点	3	○ 基本的な生活習慣を定着し、よりよい人間関係を形成しながら、自己実現を図ろうとする生徒の育成
目標（評価規準）		①【 規律・礼節 】秩序や規律のある生活を送るために、きまりの意義を理解し、礼節をふまえ、時と場に応じた言動をとっている。 ②【 安心・安全な生活 】暴力や暴言、いじめのない、安心して安全な生活を送っている。 ③【 望ましい人間関係の構築 】互いの人格と個性を尊重し、よりよい人間関係を築いている。 ④【 進路選択 】自分のよさを発揮するための主体的な進路選択を通して、自己実現を図ろうとしている。
重点に係る現状 設定理由		睡眠時間をしっかりと確保することや朝ご飯を食べること、SNSの正しい利用などの基本的な生活習慣を基盤としながら、よりよい人間関係を形成し、有意義で充実した学校生活を送る中で、現在および将来における自己実現を図っていくことができるようにしたい

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	○ ①【 規律・礼節 】の項目「きまりの意義を理解させ、生徒が礼節を踏まえ、時と場に応じた言動が取れるよう指導していますか」という設問に対し、96.0%の教職員が肯定的な評価であった。また、②【 安心・安全な生活 】の項目「暴力暴言・いじめ・からかいが許されない環境をつくっていますか」の設問に対しては、100%の教職員が肯定的な評価であった。さらに、③【 望ましい人間関係の構築 】の項目「困ったことがあったら、誰かに相談するように指導していますか」及び「あなたは、生徒が困っている時に、相談しやすい環境づくりをしましたか」という設問ではいずれも92.0%の教職員が肯定的な評価であった。 ● 一方、④【 進路選択 】の項目「将来の生き方を見据えながら、情報収集や学習に意欲的に取り組む態度の育成について成果はありましたか」の設問では、20.0%の教職員が否定的な評価であった。コロナ禍の中で進路学習・キャリア教育について思い切った活動が制限されている苦悩が表れているものと捉えている。
各アンケート等の結果	☺ ①【 規律・礼節 】の項目では、92.9%の生徒・90.1%の保護者が、②【 安心・安全な生活 】では、86.6%の生徒・83.8%の保護者が肯定的な評価であった。また、③【 望ましい人間関係の構築 】の項目では、85.4%の生徒・94.1%の保護者が「相談できる大人がいる」と肯定的な評価であり、89.0%の生徒・87.3%の保護者が「相談できる友だちがいる」と肯定的な評価であった。 ● 一方、④【 進路選択 】では、23.2%の生徒・44.2%の保護者が否定的な評価であり、将来を考えて意欲的に進路学習や職業学習に取り組んでいるとはいえない状況が明らかになった。
自己評価結果 (見解と改善方策)	○ 学校全体が、年々落ち着いてきていることが明らかに見取れます。理由として考えられることとしては、以下の点であると考えます。 ・ 教室の整理整頓 ・ 教職員間のごまめな情報共有 ・ 小まめな声掛け ・ 授業に入ることを基本とした指導 ・ チャイム前席の徹底 ・ 教員全員での登下校指導の徹底 ・ 出欠席黒板を学年で記入（担任だけに任せていない） ・ 部活動指導中に顧問が指導に当たる時間が長い ・ 当たり前のことを当たり前にする雰囲気作りができています ・ 児童相談所・警察・S C ・ S S Wや病院との連携 ● 課題としては、(気持ちなど)内面的に弱い生徒が増えていること、一部の生徒の自ら解決する力が育ちにくい環境になっていること、スマホなどデジタル機器に依存する生徒が増えていることがあげられます。 ➔ 個々の対応については、保護者や他の機関とともに改善策を考え進めていき、多くの生徒が雰囲気になれないようにしていくことを心がけていきたい。また、お互いに助け合うことは良いことだが、助け合う場面と、個々の力を伸ばす場面をきちんと分けることも配慮していきたい。さらに、スマホに依存するデメリットを生徒・保護者に継続指導していくことも大切であると考えています。 ● コロナの状況を踏まえながら、少しずつ生徒にとって必要な進路学習・キャリア教育を工夫しながら進めていきたい。
学校関係者評価結果	○ 交通マナーを守らない、買い食いしている南中生を見ると残念な気持ちになる。地域に愛される南中生でいてほしい。 ○ 道を譲ってくれた車の運転手にあいさつをしている南中生を見るとホッとす。南中生のよいところが地域の中でも見ることができるとうれしいと思う。 ○ 今日拝見した授業の中でも、子どもが大切にされている、子どもたち同士での意見を認め合っている姿が見られた。こうしたことの積み重ねがあるから規律を守ろうとする姿勢につながっているように感じた。相乗効果となっているのではないだろうか。
最終改善方策	○ 本校の生徒は、保護者の皆様のご理解とご協力のおかげで、秩序や規律のある生活を送るための基本的な礼儀や礼節を踏まえた言動ができています。今後も引き続き、教職員と生徒・保護者との温かい信頼関係のもとで指導・支援することが大切だと考えます。今後も、指導に関する一貫性を生み出すための情報共有を充実させながら、教職員が一丸となって、何気ない普段の生活を充実させる指導に当たっていきたくと考えています。 ○ 学校内で生徒同士が「暴言、暴力」を振るうケースは減っていますが、SNSトラブルなど、匿名性を利用した学校外での問題行動は減っていないのが現実です。 ○ SNSの危険性や発信に伴う責任を生徒だけではなく保護者も含めて意識していくことが必要な時代ですので、今後も、家庭と学校で連携をしながら情報の扱いに関する指導を行っていくことが必要だと考えています。 ○ 同様に、教職員自身も自らの襟を正し、生徒の模範となるような言動をしていかなければならないと強く思っています。 ☺ また、自分の将来を考えるための進路学習やキャリア教育についても、機会を捉え、工夫しながら進めていきたい。